

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	195900022		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム紅葉の里		
所在地	夕張市紅葉山235番地11		
自己評価作成日	令和7年2月26日	評価結果市町村受理日	令和7年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0195900022-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族の意向に沿った、もしくは、その人らしい生活の維持が難しくなっている利用者様が多いです。
このような状況下ではありますが、今後もその人らしい生活を自分で選択し自分の力を維持できるよう職員はできないことに対して支援することで安心かつ快適でゆったりとした暮らしの場の提供を目指して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム紅葉の里」は、JR新夕張駅から徒歩で10分ほどの位置に建っている1ユニットの事業所である。自然豊かな場所にあり、山々の四季が楽しめる環境にある。当事業所は開設して11年目を迎えており、利用者はコンビニエンスストアの買い物や道の駅のイベントに参加したり、花見や紅葉見学を楽しむなど地域に馴染んで生活している。近くには協力医療機関があり、週1回の訪問診療と、いつでも対応が可能な体制で医療面が充実している。運営推進会議では行政担当者や地域住民、また消防署職員が参加することもあり、行政や町内会と連携しながら、法人のバックアップの下に運営を行っている。建物は平屋で、共用空間の間は大きな窓から日が差して明るく、心地よい空間になっている。今回新たに就任した管理者は、事業所での職歴を生かし、業務の整備をしながら熱心に運営を進めている。ケアマネジメントでは計画作成担当者を中心にモニタリング評価を行い、本人の意向を聞いてケアにつなげている。生活の中心は食事という、法人作成の献立には豪華な料理も入っており、職員の手作りで食事を提供している。誕生日は好みの料理でお祝いし、花見には弁当を取り寄せて食事が楽しめるように工夫している。管理者と職員は家庭的な雰囲気のもとに、利用者に寄り添う自由な暮らしを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える所に掲示しているが振り返る事が少なく実践につなげているとは言えない。	理念の中に「地域とともに」の文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を掲げ、至る所に掲示して職員の意識付けを図っている。職員は内容を理解し、利用者に接する際に理念を振り返ることもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近くにある美容室に月1回来ていただき散髪を行いながらコミュニケーションをとっていただいています。町内会に加入しています。	散歩やコンビニエンスストアで買い物の際に、住民と挨拶を交わしている。道の駅のイベントに出かけて「夕張メロン食べ放題」に参加したり、キャラクターと写真を撮って楽しんでいる。近隣から果物のお裾分けを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は3回の開催である。会議では事業所からの報告事項が主となっている。意見・助言があればそれを反映しサービスの向上につとめている。	行政、地域、生活支援コーディネーター、家族代表などの参加を得て3回開催し、消防署参加の会議もある。事業所の報告を中心に質疑も得ているが、全家族に議事録を送付していない。今後はヒヤリハットなども記載し、テーマを広げて内容を充実したいと考えている。	6回を目途に会議を増やすよう期待したい。全家族にテーマを記載した会議案内を送るとともに、参加が出来ない家族の意見も収集し、質疑応答が分かる議事録を全家族に送り共有できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夕張市とは利用者、待機者の状況、新規受け入れなど必要に応じて行なっている。	夕張市に変更届など、運営に関することは本部で行っている。介護認定申請時には市からの認定調査員の聞き取り調査に、普段の様子を伝えている。また生活保護担当者とは、利用者面会時には情報を交換し、必要に応じて連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていません。日中は非常時以外玄関の施錠はせず過ごしていただいています。	身体拘束廃止委員会は法人合同で開催し、虐待防止委員会も行っており、議事録の内容として分かりづらい。研修では身体拘束に関するCDの活用や、「禁止の対象となる具体的な行為」も学び、現在身体拘束は行われていない。身体拘束の禁止行為を再確認し、理解を深める意向である。	事業所として、委員会の書類を整備し、また年2回の研修実施の記録や書類整備にも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自分たちの介護に対して虐待ではないかなど注意を払い防止に努めている。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を利用し入居されていた利用者様がいました。利用しなければならない方、法定後見人制度、任意後見人制度の違い、判断力低下対象となる方についてのファイル化をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に訪問して頂き、不安や疑問点等を話していただき説明しております。契約時には時間をかけ説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便り発行時、職員と情報を共有し記載している。状態の変化があった場合はすぐに電話で連絡を入れています。	来訪時や電話の際に得た家族の意見は、業務日誌に記録し共有している。今後、個別の意向を継続して把握できる工夫も考えている。毎月「紅葉の里だより」を個別に送り、写真を載せて普段の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を発言しやすい雰囲気を作り、出された意見は反映できるよう努めております。申し送り書等を活用している。	職員の提案があれば、申し送り時に検討し、必要に応じて法人の役職者に要望を伝えている。管理者は話しやすい雰囲気を作り、業務中に職員の意見を聞いたり、勤務表の希望や個人的な事情なども聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望など伝えている。週1回部長が来ているので問題等がある時は対応していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、行政主催の研修日程・内容等を回覧し情報提供を行い受講できる環境作りを心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はできていないが同事業所の職員の助言意見交換があります。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分かはわかりませんが、一人一人が安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設への要望など伺い安心してサービスを受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら安心して利用できるように対応している。早急な対応が必要な利用者様には可能な限り対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するという意識を持たずお互いに共同しながら和やかな生活をできるよう声掛けしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人一人の様子を電話、訪問時に伝える事が家族との協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会規制がありました。現在は、遠方から来られるご家族・お友達との対面対応を行っています。(マスク・体温測定・手指消毒)	友人の来訪時には玄関内で会っている。菓子類やビールなどの贈り物が届く利用者もいる。近くの訪問診療の主治医や訪問理美容の職員とは顔馴染みになっている。家族と外出し、墓参り、外食、カラオケなどを楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活では居間や食堂で自由に過ごしていただけるよう声掛けしています。ラジオ体操・カラオケ・ランプ・文字合わせ等一緒に行い交流を深めています。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありません。今後機会があれば必要に応じて行ないたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報、ご本人やご家族からの思い、好きなこと、また職員から得た情報をアセスメントシートに記載しながら、ご本人ご家族の思いに近づけるよう努力し作成しています。	ほぼ会話が成立し、普段の会話や介護計画更新時に意向を聞いている。課題分析の項目に嗜好や趣味、習慣などを記載しているが、変化を追記し具体的な内容を多く収集したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族又は入居前の関係者から情報収集しています。又日々支援に係る職員から、ご本人より得た情報などをアセスメントシートに追記の情報として記載し、整理しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて、日々の身体状況を観察、記録し、必要時は職員間の情報の情報共有を図っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意向を伺い、又職員からの情報を元にアセスメントを行い介護計画を作成。入居時は1ヵ月後に見直し、現状の生活に沿った支援が行えるよう更新しています。	計画作成担当者は職員の情報を参考に3か月ごとに短期目標のモニタリング評価を行い、長期は1年ごとに全体を評価し介護計画を作成している。本人に説明し、同意印は本人になっているが、家族の同意印は今のところ得られていない。	1年ごとに全体を評価し作成した介護計画書を家族にも送り、意向を確認して同意印が得られるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は食事・水分・排泄など暮らしの様子が記載されている。職員の間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に合わせてその時に必要な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、消防、生活保護、居宅支援事業者等と協力しながら指導等を受け支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療及び訪問歯科と相談しながら健康管理をしている。	週1回協力医の訪問診療を全員が受け、何かあれば、いつでも往診などの協力を得ている。他科受診は家族が同行し、健康情報を口頭で伝え、結果を聞いている。往診、受診の結果は業務日誌で共有しているが個別の受診経過が分かりづらい。	利用者ごとに往診、通院の内容を整備し、日付で業務日誌が参照できるなどの工夫で、時系列に分かる綴り方に期待したい。

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に相談しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には利用者様の情報を提供している。家族とも情報交換をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、本人の希望をできるだけ取り入れ主治医と連携を図りながら安心して過ごせるよう努めている。	利用開始時に重度化した場合の対応を説明し、事業所での対応が難しい内容も伝えて同意を得ている。本部に連絡し事業所にも文書の保管を考えている。状態の変化時には関係者で方針を確認し、病院への入院や意向にそって特養施設などに移行している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	周知しているが定期的な訓練が必要と思います。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っており、災害時の避難に備えております。地域住民の方との関係が希薄なので不安があります。	今年度は昼夜の火災を想定した自主避難訓練を実施しているが、地震などの訓練は行われていない。感染症の状況を見て消防署と地域住民の協力の下に訓練を行う予定である。また、消防署の協力で職員の救命講習会なども考えている。	地震からの火災などを想定した訓練を行うよう期待したい。また、事業所内の危険場所やケア別の対応についても話し合い、記録で見直しができるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。誘導の言葉かけには本人を傷つけないように努めている。	管理者は、強い口調にならないように指導している。申し送りは利用者の居ない時に行い、個人記録は扉付き棚やカーテンで目隠している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向が示せるよう本人に合わせた声掛け心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが本人の思いを把握しその人の体調に配慮しながら支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には外出着に着替えている。入浴時に着替えを促している。月1回の美容室の訪問がありカット、毛染めを行っている。			

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き入れています。昼食時には、職員も同じものを一緒に楽しんで食べています。	法人の献立で、季節感や年間行事に配慮した彩り豊かな食事が提供されている。誕生日は本人の好きな刺身や赤飯、生チラシなどでお祝いしている。花見に弁当を取り寄せて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時は訪問歯科医師に相談し支援をしている。毎食後、自力又は介助し全員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて、さりげなく誘導しトイレで排泄できるよう支援しています。	ほとんどの方が自立しているが、全員の排泄を記録している。間隔が空いている時や誘導が必要な方にさりげなく声をかけ、失敗を減らしている。全員が昼夜ともトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表・水分チェック表で水分摂取量に気を付けている。(ヨーグルト、かつ減等の提供)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる体制である。午後からの入浴であるが早く入りたいなどの希望があれば声掛けし対応している。	毎日入浴が可能で、一人週2～3回の入浴を支援している。本人の習慣に合わせてシャワー浴で対応したり、入浴剤などを入れて入浴が楽しめるように工夫している。見守りでの入浴や同性介助の意向にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し1日の生活リズムを作りを通じた安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時に一人一人に手渡し飲み込むまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳・下膳・食器吹き・洗濯物たたみ等、機能に応じ対応している。		

グループホーム紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば外出の機会を作ることはできます。紅葉見学、買物等外出しています。	普段は事業所周辺を散歩したり、コンビニエンスストアや道の駅に出かけている。ウッドデッキで外気浴しながらお茶を飲むこともある。紅葉見学や花見に出かけたり、冬季に除雪を手伝う利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て少額のお金を持っている利用者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話をかけています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間等は家族的な雰囲気があり季節感も感じられる工夫をしています。日差しがまぶしい時はカーテンを閉めるなど廃炉している。	大きな窓に面した明るい居間と食堂には、観葉植物や利用者の塗り絵作品、カレンダーなどが飾られており家庭的な温もりが感じられる。ウッドデッキもあり、気軽に外気に触れることができる。浴室にはミストシャワー設備もあり、浴槽に入れない方も入浴を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食堂の椅子など木の合った方と過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド・クローゼットがありテレビ馴染みの家具を持ち込んでいます。	各居室にベッドとクローゼット、温湿度計が備え付けられている。タンスや収納ケース、使い慣れたラジカセや鏡などを持ち込んでいます。好きな縫いぐるみや家族の写真、小物類を飾り、落ち着いた過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、浴室、廊下の要所に手すりが設置されている。一人でも安全に歩行ができるようになっている。台所は対面キッチンで下膳ができる。		